

# 第1学年 算数科学習指導案

## 1 単元 のこりはいくつ ちがいはいくつ

### 2 主眼

求補の場面も求残の場面と同じように、減法で求めることを理解し、図を使って答えを求めることができる。

### 3 本時の学習活動（4/10）

| 段階                     | 学習活動  | 具体的な手立て   |
|------------------------|---|---|
| 知る<br>(説明)<br>15分      | 1 予習から、本時のめあてをつかむ。<br>○ 予習の問題場面を確認し、前時との違いを捉える。<br><div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <b>【問題】</b> 子どもが10人います。男の子は4人です。<br/>                         女の子は何人ですか。                     </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">                         同じなかまをわけるときは、どうするのかな。                     </div> ○ 「のこりは」の言葉がなく、いなくなる場合の問題も、全部の数からわかっている数をひけば、のこりが答えであることを、図を見ながら捉える。<br><div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">                         同じなかまをわけるときもひき算です。                     </div> | <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> <b>【予習内容】</b><br/>                         問題文を読み、前時との違いを考える。                     </div> <b>【困難度査定】</b><br>◇ 「のこりは」というキーワードがなく、何かがいなくなる場面ではないため、ひき算だと気づかない子どもがいることが予想される。<br>○ 減法で求めることが理解できるように、前時と同じ図を用いて表す。<br>○ 求め方の説明ができるように、説明の手順（「10本」「3本」「だから、のこりは」）のキーワードから図を使って話す活動を位置づける。 |
| たしかめる<br>(理解確認)<br>15分 | 2 習得した考えを使って練習問題を解き、求補の場面でも、ひき算が用いられることについて理解し合う。<br>○ 求め方を、図をつかってペアで説明し合い、全体で確認し合う。<br><div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <b>【確認問題】</b> 鉛筆が10本あります。3本削ってあります。<br/>                         削っていない鉛筆は、何本ですか。<br/>  <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 5px;"> <span>(式) <math>10 - 3 = 7</math></span> </div> <div style="margin-top: 5px;">                         (答え) 7本                     </div> </div>                      | ※ 同じなかまをわけるときもひき算で求めることを、図を使って説明することができる。   |
| 深める<br>(理解深化)<br>10分   | 3 思考を深める問題を解き、考えを交流し合う。<br>○ 解くための方法をペアで話し合い、自力解決する。<br><div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <b>【深化問題】</b><br/> <math>10 - 6 = 4</math>の式になるお話をつくりましょう。<br/> <b>【例】</b> くじが全部で(10)本あります。<br/>                         (6)本はずれました。<br/>                         あたりのくじは全部で(4)本です。                     </div>  | ○ 自力解決できるように、はじめの数だけ確認する時間を設ける。<br>○ 同じなかまを分けるときでもひき算をするという理解を深めるために、【数範囲の変更】の問題を設定する。<br>○ 理解状況を把握するために、自分で分かったことをノートに記入し、ペアで分かったことや難しかったことを話す活動を位置づける。  |
| 振り返る<br>(自己評価)<br>5分   | 4 本時学習を振り返り、「分かったことや難しかったこと」を明らかにする。<br><div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">                         いなくなる時も、ひき算で答えが求められるということが分かった。                     </div> ○ 次時の予習内容を知る。【予習内容】ひき算カードを使って、ひき算の練習をする。   | ○ 次時の予習内容を確認し、次時の見通しをもたせる。  |

